

## 設計士の夢に向けて 基礎から実践へ

 木造建築スタジオでは「構造」「デザイン」「改修」「生活環境」などの木造建築に関わる分野のほか、「林業」「木材」「環境教育」「生態系」など森林に関わる多くのことを学びます。これらを実践を通して理解を深めるのが「木造建築実践プロジェクト」です。アカデミーの教員や卒業生と共に実際の物件に携わります。

私は先輩から引継いだKさんの住まいの新築工事に関わっています。はじめに家の骨組み(架構)の設計を先生や先輩に教えて頂き、相談しながら進めていきました。そして工事が始まり、先日上棟式が行われました。工事に携わる多くの職方さんが木遣歌(きやりうた)を歌う姿に一軒の家づくりに多くの人に関わることを知り、設計者の責任の大きさを感じました。

これから内部の工事が進んでいきます。最後は木造建築スタジオ全員で床のワックスがけをしてKさん家族に引き渡します。まだまだ先は長いですが、がんばります。

(2年 柿原 信司)



## 山村の「希望の種」を収める蔵

 11月の「岐阜・三重グリーンツーリズム大会」で、飛騨市宮川町の種倉分科会に参加しました。岐阜は、東と西の文化圏が混在しており、飛騨・高山は東の文化圏の西端で、地域の名称でもある「種倉」とは、穀物保存と農機具スペースを備えた木造の板倉です。倉は住居のそばに建てるのが一般的ですが、この地域ではわざわざ離れたところに建てています。母屋には鍵をかけないが、種蔵は二重の戸締りで盗難に備えたそうです。厳しい冬を乗り越えてきた山村地域の人々の希望の種が保管されていたわけで、種の喪失は、翌年の「飢え」を意味したのです。「種倉」に山村の人々の「備えの知恵」を感じました。

(山村づくり講座 教授 原島幹典)



## 「木だって地産地消!森からのおくりもの」大盛況



11月7日(土)8日(日)東京おもちゃ美術館にて、初めての子どものための木の玩具・家具の見本市、「森のめぐみの子ども博」が開催されました。

開学当事から先進的に「木育(もくいく)」の研究と実践をしてきたものづくり研究会では、おもちゃ美術館を運営する日本グット・トイ委員会と共同研究をすすめ、子ども博のシンボルブースを企画・制作しました。このブースは単に展示するだけではなく、木について学びながら、木育プログラムを体験できるコーナーも設置されており、注目を集めました。間伐材を木育プログラムの教材も、岐阜証明材を活用した展示什器も、学生・卒業生・教員が協力して開発しました。確かな木工技術と、伝える技術を学んだ成果が、当にここで生かされました。

(ものづくり講座 教授 松井勅尚)

### 森と木のクリエイター科



林業再生



山村づくり



木造建築



ものづくり

### 森と木のエンジニア科



(森林・林業・木材利用)

岐阜県立森林文化アカデミーは、森林を多面的に活用し、新たな森林文化の創造に寄与できる人材を育成する2年制の専修学校です。

大卒または実務経験者が対象の森と木のクリエイター科では「林業再生」「山村づくり」「木造建築」「ものづくり」のいずれかの講座に所属して専門的に学び、高卒以上の人を対象とする森と木のエンジニア科では、全員が「森林・林業・木材利用」を学びます。

# 積雪地帯の林地で出会う「驚愕の事実」



私の実家は、積雪地帯で造林会社を経営しています。いま課題研究の一環で、実家の管理している造林地で林分調査をしています。

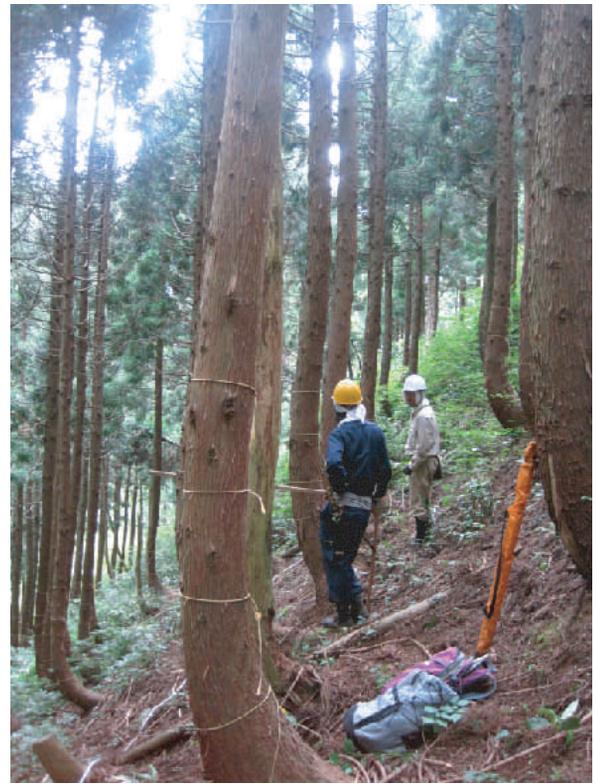
今まであまり訪れなかった積雪地帯の造林地を歩いていると、多くの「驚愕の事実」が判明してきます。

雪起こしなどの初期保育を丁寧に行っているにも、大きく根元が曲がっているスギ。せっかく成林しても、材としての市場評価は低い。そして追い打ちをかけるように頻発するクマとシカによる被害。

戦後八ヶ山と化した日本の山を、木材資源を増やし、水源涵養や様々な災害から国土を守るために、希望をもって行われてきた拡大造林。けれど同時に、適地適木の基準を緩めて画一的に単一の樹種を造林してきたことが、雪害を引き起こし、クマやシカの餌を奪ってきたのかもしれない。今回の調査は、そうした現状を目の当たりにするきっかけになりました。

しかし現状の市場価値がどんなに低くても、先人達が懸命に育ててきた大事な山を自分たちは守り、やがて利用していく必要があります。その方法・手段を、今後模索し続けていきたいと思えます。

(2年 加茂隆樹)



## 「せーの」で、まくれ！ 地拵え



エンジニア科の学生たちは「地拵え(じごしらえ)」を体験しました。地拵えとは、植林をする前に、散乱している枝や梢を数箇所まとめ置きし、植林や下刈の効率を高めるための準備作業、いわば「ご馳走さま後のお片づけ」です。

皆伐(ある範囲の立木を全部伐採する方法)後の急斜面を登ります。30度以上ありそうで、下を見るとちょっと怖いかも？

まずは全体に散らばっている枝や梢を横に並べ、長いものは2mくらいに切ります。それから棒を使って枝や梢を巻き込みながら下に転がしてゆきます。巨大なロールケーキとか伊達巻を作る感じです。現場では「巻き落とし」とが「まくり」と呼んでいます。2mほどの棒を地面すれすれに差し込み、「せーの」で棒を一気に持ち上げるとまくりができます。

エンジニア科ではこうして1年後期から2年前期にわたり、人工林を植えて育てる方法(植栽、下刈、除伐、間伐、枝打ち)を学んでいきます。

(教授 原島幹典)

## 森林文化アカデミーQ&A

### 「卒業後の進路は？」

大卒または実務経験者が対象のクリエイター科では、林野庁、森林組合、設計事務所、環境教育団体などへの就職はもちろん、みずから起業する人もたくさんいます。たとえば、2010年 春に卒業した小野敦さん(42)。大人や子供にもものづくり体験を提供する「NPO法人グリーンウッドワーク協会」の代表として、美濃市を拠点に活動しています。また小野さんは岐阜県から「木育推進員」にも委嘱されており、森林文化アカデミーと共同で様々な仕事も行っていきます。卒業生とネットワークをつくりながら活動しているのが、森林文化アカデミーの特長でもあります。

高卒以上の方が対象のエンジニア科では、岐阜県内を中心に、林業や製材業、木材加工業の現場へ多くの方が就職しています。また、大学の3年次に編入したり、県職員など公務員の道へ進む卒業生もいます。

## 後期入試、まだ間に合います！

出願期間は、2011年 1月5日から1月19日までです。(消印有効)

森と木のクリエイター科 後期入試 2011年 1月29日(土)  
森と木のエンジニア科 後期入試 2011年 1月30日(日)

## お問い合わせ

学校見学は随時受け付けております。お気軽にお問い合わせください。

501-3714 岐阜県美濃 市首代88 岐阜県立森林文化アカデミー  
tel 0575-35-2525 fax 0575-35-2529  
email info@forest.ac.jp